

川越市の観光と地域経済

蔵造りの町並みで全国的に知られている川越市は、豊富な観光資源に恵まれて埼玉県内外から毎年多くの観光客が訪れている。同市観光課の調べによると、2008年の年間入込観光客数は初めて600万人の大台を超過して604万7,000人を記録（図1）。今年（2008年）はNHKテレビドラマの“つばさ”効果もあることから、さらに観光客数の増加が予想され、市内は活気に満ちている。今や観光都市として埼玉県を代表する川越市だが、本格的に観光振興に力を入れ出してまだ20年ほどの年月しかたっていない。

川越市が一躍、観光都市として脚光を浴びるようになったのは、やはりテレビが引き金だった。1989年（平成元年）に放映された大河ドラマの“春日局”で喜多院を巡る観光ブームに火が着き、官民が一体となって観光振興に取り組むようになってからのこと。もちろん、当時から伝統的な耐火建築物である土蔵造りの商家や時の鐘を見て回る観光客が大勢いたが、市当局も市民も観光都市という意識はなかったという。

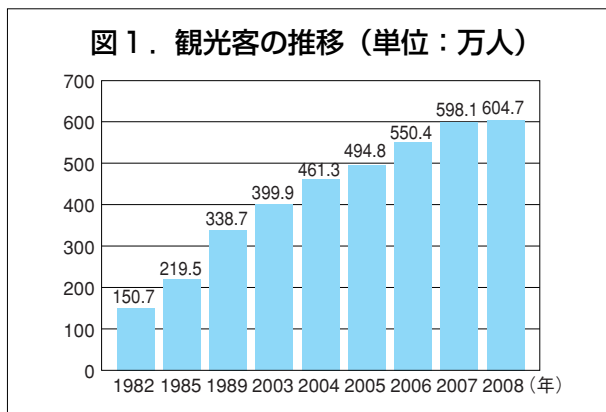
しかし“春日局”の放映で、年間の入込観光客数が約230万人から約330万人へと一挙に100万人も増加したとなると、さすがに観光都市を無視することができなくなった。官民



NHKの大河ドラマで一躍有名となった喜多院。放映の年には観光客が押し寄せ、川越観光ブームに火を着けた

一体の観光振興が始まり、市内の観光名所を①蔵造り②川越城本丸御殿③喜多院—の3つのゾーンに分けて整備を始め、現在のような1日観光コースに設定している。特に、蔵造りゾーンの観光振興には力を入れ、最近でも新たな観光スポットを開発した。それが約120年続いた鏡山酒造跡地で、廃業を契機にマンションに建て替えられるところを市が用地と建物を購入。今年5月から敷地内に古くから残っている酒造蔵をそのまま生かして、観光案内所と県の観光物産館、農産物販売所、企画展示スペースなどとして活用を図っている。

これまでの観光振興は、昔からある建築物や景観を活用してきたが、この鏡山酒造跡地のように眠っている観光資源を発掘して観光の目玉とする取り組みにも積極的に乗り出した。例えば、市の西側に位置する河越館跡や雑木林などを観光資源として生かせないか、あるいは蔵造りゾーンの中にある旧川越織物市場の活用など¹⁾、「眠っている多くの資源をどう活用していくかが今後の課題」だと、市観光課は話している。あるいは、歴史的に価値ある建築物などの所有者から活用してほしいとの要望が数多く寄せられるが、「財政的



出所：川越市観光課のデータから当研究所で作成



毎年100万人以上の観光客を呼び込む川越まつり

な問題からすべてを買い取るわけにもいかず、これも課題の一つになっている」と観光課。眠っている観光資源の多さは喜ばしいことだが、その取捨選択は難しいようだ。

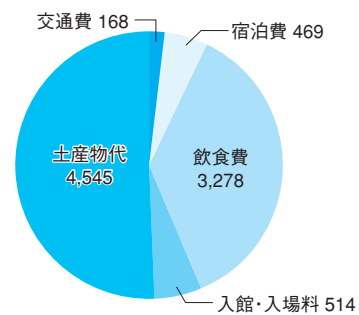
ハード面とは別にソフト面での観光資源も豊富にある。その代表格が“川越まつり”で、毎年10月の第3土・日曜日の2日間で約100万人以上の観光客が訪れている。350年以上の歴史を誇る大祭で、本来は川越の総鎮守である氷川神社の祭礼行事だったが、1968年(昭和43年)に運営母体が変わり、全市的な祭りとして定着した。このほか真夏の風物詩、“小江戸川越花火大会”や3月下旬から5月上旬に行われている“小江戸川越春まつり”などの観光イベントも豊富にある。加えて、川越と言えばイモ(サツマイモ)が代名詞と言えるほどイモの加工品が多くイモせんべい、イモ松葉に最近ではイモビールやイモアイスを発売。従来品の狭山茶や川越桐ダンス、あるいは川越唐棧などの観光物産も数多くある。こうした名物、物産の中から選りすぐった地域物産を“小江戸川越ブランド”として売り出し、全国にアピールする努力も怠らないでいる。

こうした官民共同で取り組む観光振興で、

前述したとおり年間600万人を超す観光客が訪れているが、その約35%が埼玉県民で残りは首都圏からの来客。最近では小江戸川越観光協会が誘致キャンペーンを行った結果、中国や台湾、韓国などアジア諸国からの外国人観光客も増えている²⁾。ただ、残念なことにはほとんどの観光客が日帰りだということ³⁾、宿泊客が極めて少ないことがネックになっていることだ。観光課によると「ホテルや旅館もあり、それなりのキャパシティは確保できているが、埼玉県が首都圏に位置していることが長時間滞在を妨げている」と話す。この点、交通アクセスが良いのも善し悪しで、滞在時間をいかに伸ばすかが課題となっている。

滞在時間がそれほど長くないことで、地域経済への波及効果にも損をしているようだ。観光課では、昨年4月から今年3月までの1年間、観光アンケート調査(9,341人が回答)を実施している。2005年と2007年に続いて3回目の調査で、観光客に直接聞き取りを行った結果を基に、観光消費額というものを弾き出した(図2)。それによると、年間の消費額は約89億7,470万円で、少し抑え気味の算出額だが、2007年の前回調査の算出額と比べると約1%増えた。年間消費額が89億円余に

図2. 年間消費額内訳(単位:百万円)



川越市観光課試算

なったのは、約604万7,000人の入込観光客数から、実際に消費活動を行う人数を約40%の241万人としたからで、3年前の調査と同様に4割の消費行動。この4割という根拠は川越観光には家族単位で訪れるケースが主流で、家族行動では全員が消費活動を行わないとの考えからという。

年間消費額をさらに項目別に分類すると、市内で支出する平均交通費は481円で年間全体総額では約1億6,809万円、宿泊費は平均で1万808円とし年間の全体額は約4億6,885万円。また、飲食費の平均が1,635円で、年間全体では約32億7,837万円に上り、資料館や博物館などの入館・入場料が平均457円として約5億1,434億円の収入があると算出している。このほか、地元でのお土産購入の平均額が2,314円で、年間全体では約45億4,504万円とした。こうしてみると、飲食費とお土産購入費が全体の約87%を占め、いかに大きいか分かる。しかし、飲食費は別にしてお土産の平均単価が2,314円という消費額は意外と少ないように感じるが、これについて観光課では「蔵造りゾーンの中にある菓子屋横丁に代表されるように、一つの土産品単価が安いためだろう」と説明する。

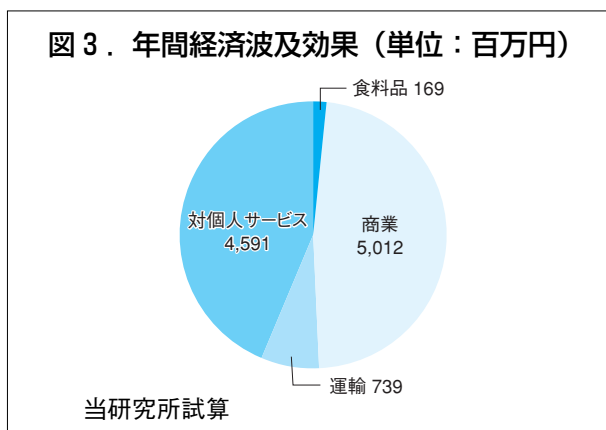


川越観光を代表する蔵造りの町並み

消費支出の試算では、“日帰り観光客”と“宿泊観光客”、それに“観光客全体”に分けて、平均の消費額についても算出している。それによると、日帰り観光客の一人当たり平均消費額は3,484円で、宿泊観光客は1万7,374円⁴⁾、観光客全体の平均消費額は3,726円だった。この観光客全体の平均消費額は、約604万人の入込観光客のうち4割とした先の年間消費額約89億7,470万円を一人当たり割った金額とイコールする。つまり、観光課の試算では、長時間滞在型ではない短時間滞在型の観光地であるがゆえに消費額が少なくなってしまうのだ。

ちなみに、当研究所では産業連関表を用いて、観光振興が川越市に与える年間の経済波及効果を試算してみた(図3)。基礎となる数値は、観光課がアンケート調査から導き出した飲食費などを合算した年間消費額89億7,470億円で、そこから派生する第1次間接効果と第2次間接効果、さらには全体の年間波及効果額と雇用創出を割り出している。その結果、年間の経済波及効果額は約132億7,600万円で、1,516人の雇用が見込まれるとの結果が出た。各産業の中で最も年間の経済波及効果が大きいのが商業で、755人の雇用

図3. 年間経済波及効果 (単位: 百万円)



を生み波及効果は50億1,200万円。対個人サービスも影響が大きく、45億9,100万円の波及額で583人の雇用創出が見込まれた。なお、この波及額は“つばさ”効果で見込まれる観光客増を除外している。

観光振興による経済波及効果は、一般機械や非鉄金属など製造業へは薄いものの、商業や運輸、サービス業へは高いという特性を持つが、地域経済にとっては重要な産業。それだけに、観光産業をいかに成長させていくかが地域経済の活性化につながり、川越市以外でも豊富な観光資源を持つ県内市町村にとっては活用の仕方がポイントになるようだ。

もちろん、川越市では観光客のより一層の誘致に様々な角度から取り組んでいる。例えば、スムーズに観光スポットに誘導するために観光案内版や観光サインを各所に設置。デザイン性にも優れ、歴史的町並みの景観を損ねないようにと、1998年度から3年かけて計画と設計などを行って決めたもので、昨年には外国人観光客にも理解できるように英語に加えて韓国語や中国などの多言語化で表示している。このほか、休憩できるポケットパークや公衆トイレも整備、観光バスも駐車できるスペースを確保。中心市街地の交通渋滞を緩和させるために、新たに郊外型駐車場の整備も進めている。

しかし、観光客が増加すればするほど問題となるのが観光スポット周辺での交通渋滞問題だ。とりわけ、人気スポットの蔵造りゾーンでは、人と車が交差して観光するのも一苦労だ。観光客の約半数が自家用車や観光バスを利用していったという調査結果⁵⁾もあり、市では駐車場を確保する一方、今年は初めて蔵造りの町並みが続く“一番街”で歩行者天国

を実施した。観光客が集中する5月のゴールデンウィーク期間中の3日間で、交通規制によるシミュレーションや周辺住民へのアンケート調査も併せて実施。その結果を基に、11月には17日間という長期間に一番街での一方通行や土日通行止めの社会実験を行う予定で、来年3月には実験結果を基に最終的な交通規制のあり方をまとめることにしている。

一方、観光客の滞在時間を延ばし、地域経済に与える効果を高める方法の検討も課題の一つ。そのためには、新たな観光資源を発掘して長時間滞在させる魅力を増やすことであり、消費を促すための観光物産を豊富に取りそろえていくのも地元経済にとっては必要なことであろう。滞在時間の延長策に限らず、現在の観光客数をさらに伸ばすためには、広域観光開発も考えられる。既に、川越市に隣接した越生町の梅林や日高市の中着田、毛呂山町の鎌北湖などの他地域の観光スポットと連携して広域観光を提案しているが、まだまだディスティネーションの開発余地は残されている。観光振興による地元経済の発展には解決する課題も多々あるが、川越市は行政として「観光」を主要な事業としている。



今年5月に観光スポットに加わった鏡山酒造跡地

川越市の主な観光資源

〈既存の観光資源〉

- **蔵造りの町並み**…日本の伝統的な耐火建築である土蔵造りの商家。その多くが明治26年の川越大火後に建築された。江戸情緒を現代に伝える町並みとして人気のあるスポット。町並みの中には蔵造りを見学できる市立の「蔵造り資料館」や江戸時代に建てられた「大沢家住宅」などの商家が軒を連ねている。
- **時の鐘**…寛永年間（1624～1644年）に川越城主の酒井讃岐守忠勝によって建てられたと言われている。現在の建物は、明治の大火後に再建されたもので4代目。
- **菓子屋横丁**…明治初期に駄菓子を製造・卸売りする商家が起こり、最盛期の昭和初期には約70軒あった。その後衰退し10数軒となったが、近年になって懐かしい味と雰囲気が見直され、店舗数も20数軒に増加している。
- **川越本丸御殿**…川越城は、扇谷上杉持朝が長禄元年（1457年）に家臣の太田道真・道灌親子に命じて築城。本丸御殿の建物は嘉永元年（1848年）に完成したもので大玄関や家老詰所等が残っている。

〈新たな観光資源〉

- **鏡山酒造**…約120年続いた酒造会社の廃業を機に川越市が用地や建物を買収、2009年5月に観光施設としてオープン。「明治蔵」や「大正蔵」などのスペースがあり、ショップや企画展として活用している。
- **川越まつり会館**…2003年9月に蔵の町並み周辺の拠点となる観光施設としてオープン。山車の常設展示やお囃子の実演など1年を通して川越まつりが体験できる。
- **市立博物館**…1990年に開館、古代から近代までの川越の歴史や民俗資料などを展示している。
- **市立美術館**…2002年12月に開館、常設展のほか特別展もある。

〈名物・物産品〉

- **川越いも(さつまいも)**…昔ながらのいもせんべいやいも松葉などの加工品がり、最近ではいもビールやいもアイスなどの新製品も生み出されている。
- **川越唐棧**…綿で織られた縞柄模様の織物で、平織りながら絹そっくりの風合いを持っている。
- **小江戸川越ブランド**…優れた素材と技術を生かし、川越らしい地域産品を川越ブランドとして全国にアピールしていこうと始めたもので、現在64品目が認定されている。
- **その他**…狭山茶、川越桐ダンス、焼き団子

〈イベント〉

- **小江戸川越春まつり**…毎年3月下旬から5月上旬までパレードや縁日、スタンプラリー、民謡が行われている。
- **小江戸川越花火大会**…1990年から始まった花火大会で毎年、伊佐沼公園と安比奈親水公園の両会場で交互に行われている。打ち上げ数は約5,000発で、伊佐沼公園会場での水中スターマインは人気。
- **川越祭り**…約350年の歴史を誇る最大の観光イベント。10月の第3土・日曜日の2日間で100万人以上の観光客が訪れ、豪華な山車の曳き廻しや祭囃子の競演が見どころ。
- **その他のイベント**…小江戸サミット、喜多院初大師、川越百万灯夏まつり、酉の市



現在改修作業中の川越城本丸御殿正面

- 1) 全国でも唯一の残存例とされる木造の織物市場で、一時は取り壊される危機に直面したが、2002年に建物が市に寄贈され、敷地は市土地開発公社で買い取った。現在、貴重な歴史的資料として活用が検討されている。
- 2) 2009年5月に発表した川越市観光アンケート調査によると、前年に川越を訪れた外国人観光客は39,000人で、25.8%の増加。誘致に向けた観光ルネサンス事業が功を奏している。
- 3) 前掲2)の川越市観光アンケート調査によると、95.1%の観光客が日帰りだった。しかも、半日滞在者が全体の39.1%を占めている。
- 4) 宿泊観光客については、宿泊費を支出するケースと実家などに泊まって宿泊費を支出しないケースに分けて算出している。宿泊費を支出しないケースでの平均消費額は4,637円と算出した。
- 5) 前掲2)のアンケート調査